

活動報告書

報告者氏名：【首席】和田陽司【訪問専任】阪上亜由美・飯田直美・武井直子・中川奈緒美・道本延子・山本次郎

所属：大阪府立岸和田支援学校

記録日：平成 26 年 2 月 24 日

【対象児（群）の情報】

・学年 小学部 2～6 年、中学部 2 年、高等部 3 年（訪問籍児童生徒）

・障害と困難の内容

通学して教育を受けることが困難なため、120 分×週 3 回の訪問教育を受けている。戸外に出る機会が少なく、対大人との関わりが多いため、同年代の友だちとの関わりが課題のひとつとなっている。

【活動目的】

・当初のねらい 友だちと共に活動する・作る経験を増やし、教員や友だちとの関わりを広げる。

・実施期間 平成 25 年 5 月～平成 26 年 1 月

・実施者 阪上亜由美・飯田直美・武井直子・中川奈緒美、道本延子、山本次郎

・実施者と対象児の関係 担任等

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況



【A】高3ということもあり、学年の一員として仲間意識はあるものの、スクーリング回数が少ないため、関わりが少なく、共同学習の機会はほとんどなかった。



【B】訪問生本人やその保護者、学年の通学生はお互いに「友だち」という意識を持っているが、年間で約 1～2 回程のスクーリング回数のため、関わりや交流がもっとできればと思っている。



【C1】同じ学年の訪問生同士であり、訪問生本人、保護者もとてもつながりは深いがお互いスクーリングするタイミングが合わないと、学校で共に学習することが出来ないため、訪問授業内でも通信授業を通して交流を持てるようにと思っている。

【C2】同じ学年の訪問生同士だが、動画で見たことがあるだけで、会ったことがなく、お互いへの意識は薄い。

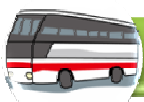
・活動の具体的内容

使用機器：iPad（3G）、iPhone（4G）、テレビ電話アプリ「Tango」、

TV モニター、HDMI ケーブル、ポータブルスピーカー又は FM トランスミッター・ラジオ

※訪問先での通信で Wi-Fi が利用できないため、3G 回線同士のテレビ電話に適した「Tango」を利用。

このアプリは、TV に HDMI ケーブルで繋いでも音声は TV から出力されない。



【A】訪問生徒宅—愛知県トヨタ会館（学年）をテレビ電話アプリで繋いだ修学旅行

●第 1 回 修学旅行事前指導 学校⇄家庭

●第 2 回 修学旅行 in 名古屋 トヨタ会館⇄家庭

①トヨタ会館にて修学旅行実況報告（修学旅行先の友だち⇒訪問生）

②ロボット演奏⇒訪問生が曲名あて

③記念撮影（iPad に映った訪問生も一緒に）

④修学旅行先の友だち・教員⇄訪問生 メッセージのやりとり

ロボットが演奏している曲はなんでしょう？



Over the rainbow ♪



【B】訪問生徒宅—学校（学年）をテレビ電話アプリで繋いだ学年HR（ホームルーム）

- 学期に1回、学年HRに参加
 - 1学期：学年旗づくり・学年の歌合唱
 - 2学期：友だちクイズ
 - 3学期：誕生日会（予定）

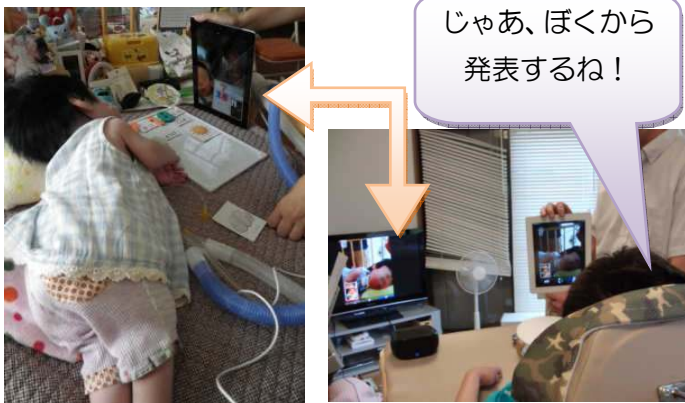


【2学期学年HR 本時の展開（一部抜粋）】

時間	学習活動 / ●支援及び留意点		準備物	
	訪問	学校	訪問	学校
13:30	訪問開始 ・バイタルチェック ・睡眠リズム・健康状態等の聞き取り 始まりの会（あいさつ活動） ・本時の予定を伝える。 ●保護者にも通信授業の参観・参加を勧める。 ●座位保持装置へ移乗する	学年HR開始 挨拶 ・ルールの説明を聞く ●ブラックボックスに手を入れて、中に入っているものを当てるゲーム。（中に入っている物は生徒が普段身に着けていたり、使っていたりする身近な物。） ・ゲーム開始 ●1組が答えている時の出題者は2組、ヒントを出して協力するのが3組。その後ひとつずつずれてローテーション。 ●解答者1名・支援する教員が前に出る。教員の「箱の中身は？」後、周りの生徒に「なんだろう？」と聞かれてから解答者は答える。	・日付ボード等	・ブラックボックス（正面に窓有り） ・箱の中に入れる物 ・ホワイトボード（点数記入）
13:50	●機器のセッティング ●通信準備	水分摂取・トイレ休憩 ●通信準備	・TV ・iPhone /iPad	・TV ・iPad
14:00	テレビ電話通信開始 ・挨拶、お互いの様子を伝える。 ●訪問生Bにルールを説明する。 ・訪問生Bがブラックボックスに手を入れ、中の物を触り、ヒントと感触を元に答える。（2問出題する） ●ブラックボックス内の物が何であるか、学校の生徒に分かるように正面の窓を撮影する。 ●学年の生徒から訪問生Bにヒントを出すように促す。 ●答えるのが難しい場合は、訪問生保護者にもゲームへの参加をお願いする。 ●音声が聞き取りにくい状況の場合は、紙に書いて答える。 ・ゲーム終了 ●友だちの物2点を改めて確認し、友だちを身近に感じられるよう、見たり触ったりする。 ・学年の歌「はっぴーす♪」の合唱・ダンス ・終わりのあいさつ / 通信終了。		・デジタルAVアダプタ ・HDMIケーブル ・スピーカー ・ブラックボックス ・箱の中に入れる物 ・画用紙 ・フェルトペン	・デジタルAVアダプタ ・HDMIケーブル ・スピーカー等 キーボード
14:30	通常授業開始	授業終了。下校準備。		



【C1、C2】訪問児童宅—訪問児童宅 をテレビ電話アプリで繋いだ合同授業



【C1 はじまりの会・うたリズム】

- ①はじまりの会
- ②1学期がんばったことの発表
(事前にかいたものを提示する)
- ③うた・リズム（ペープサート、からだあそび）
- ④同行している教頭先生からのおはなし

【C2 はじまりの会・うたリズム】

- ①自己紹介
- ②はじまりの会
- ③うたリズム（合奏）
- ④感想をお互いに伝える。



【その他】訪問児童宅一学校をテレビ電話アプリで繋いだ作品展鑑賞ツアー

●2日間で計4名の訪問児童が、作品展鑑賞ツアーに参加。

- ①訪問担当教員・学部教員とのやりとり
- ②訪問児童生徒（本人・友だち）の作品鑑賞
- ③所属学部（友だち）の作品鑑賞
- ④他学部の作品鑑賞



・対象児（群）の事後の変化



【A】・iPad と繋いだテレビ画面を興味深くよく見ていた。リアルタイムで旅行の雰囲気を感じ、一緒に修学旅行を楽しむ時間を共有することができた。

・今回の取り組みにより、さらに訪問生もクラスの一員として意識されるようになった。お土産をもらったり誕生日のメッセージをiPadで撮ったり、つながりを感じられる場が増えた。



【B】・通信でのやりとりだけでなく、実際の友だちのグッズも触りながら活動したことで、感触からも共に活動している実感を得られることができ、訪問生徒の覚醒レベルは上がり、しっかりと画面を見て活動に参加することができた。



【C1】・画面に映った友だちを見て、最初は戸惑っていたが、教員の声かけによって理解できたようで、画面をよく見て嬉しそうにしていた。通信状況等により音が途切れたりすることがあったが、集中し、児童それぞれの楽しみ方で取り組むことができた。

【C2】・初めての合同授業で、緊張をしながらも会話や歌を楽しみ、友だちとの時間を共有した。「楽しかった！また一緒にやりたい」と友だちを意識するようになった。後日には、通信した友だちにプレゼントを贈り、自ら交流を持とうとしている。

・友だちに話しかけられても、教員と普段話すように主体的に話すまでには至らなかったが、後日には友だちと一緒に歌った曲を歌いたがっていた。友だちからもらったプレゼントを嬉しそうに大切にしている。



【その他】・撮影者が作品を説明するのを聞いたり、教員とのコミュニケーションを楽しんだりし、保護者と共に学校に実際行ったような雰囲気を味わえた。通信鑑賞ツアーに参加したどの児童もよく聴いている様子だった。自分の作品が友だちのものと同様に展示されている様子を見て、納得したり、友だちの作品に興味を示したりしていた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○保護者も子どもが友だちと共に活動している実感を得、学校や友だちへの理解を深め、訪問教育やスクーリングへの意欲が更に増した。学年教員は、訪問教育・訪問籍生徒への理解を深め、訪問籍生徒をクラスの一員として更に意識できるようになった。

○普段から動画サイトやTVを見て過ごしている児童にとっては、活動後半になるとテレビを見ているような感覚になるようで、興味が薄れるとiPad ホームボタンを押して画面を消し、一方的に終了しようとしていた。リアルタイムでやりとりできるテレビ電話なのか、ビデオ動画なのかの区別がまだついていないようであった。

後日に実施した作品展鑑賞ツアーでは、教員との会話を積極的にして楽しんでいた様子から、今後は通信授業を重ねていくことで、友だちとのやり取りを楽しめるようになると思う。

○どの訪問生も、初めは戸惑いがあるようだった。上記のようにビデオ動画と思っている様子の訪問生、あるいはiPadに映った顔がちょうど実際の訪問生のサイズ感に似ているためか、自分の隣に現実に友だちがいると錯覚してびっくりしている表情を示した訪問生など、iPadの画面を通したやりとりの理解の仕方は様々なようだった。しかし教員からの言葉かけや、時間や回数を重ねて慣れてくることで、本人なりに理解し、iPadに向けて笑顔やサインを返したり、共に活動したりして楽しみながら取り組んでいる。

○訪問生【B】は、2枚の写真を示して友だちを選ぶ活動（生徒会選挙の投票）を行うと、必ず同じ学年の生徒の写真を目線で選ぶ。（⇒しっかりと学年の友だちを意識できている。）

通信授業の活動中には、同学年の友だちが画面に映るため、普段の学習時よりも画面を注視する時間が増えた。また、友だちや教員からの問いかけに、口や上肢を動かして応えることも増え、集中して見聞きしているようだった。

○活動後には友だちのことを気にかける言動が増えた訪問生がいた。実施前は友だちの話題を自ら出すことはなかったが、実施後は自ら友だちの話題を出し、通信授業を機に年賀状やプレゼントのやり取りをして交流を深めるようになった。そして、訪問学級通信やiPadを見るたびに、友だちの名を口にしていった。しかし、通信授業後、時間が経つにつれ、友だちの話題を自らすることは少なくなってきた。

⇒1回目の通信合同授業では、友だちの存在を知り、意識するということには高い効果があった。それを持続させ、関わりを楽しんだり、時には競い合ったりすること（友だちになる）までに繋げるためには、頻繁に実施することが必要である。

<通信状況・接続方法について>

○3G回線同士の通信では、映像や音声の途切れが頻繁で、学習活動を円滑に進めることが難しかった。

片方だけでも4G回線だと、映像はクリアで音声の途切れもなく、学習活動に集中して取り組むことができた。

○通信状況と共に音声の拡声が昨年度から引き続いての課題となっている。円滑に撮影するため、ハンズフリー通話機能付きBluetooth対応スピーカーを利用してきたが、通信時にiPadと接続されにくいことが多く、実用的ではなかった。当初、イヤフォンジャックから有線でポータブルスピーカーに接続して対応していたが、教室内などの広い場所での使用にはまだ音量が足りなかった。（他の大きなスピーカーも有線で接続したが、テレビ電話通信時はスピーカーから音声が出なかった）

現在は、FMトランスミッター（イヤフォンジャック）をiPadに接続し、教室内のCDラジオの周波数を合わせて、音声の拡声を試行している。

・エビデンス

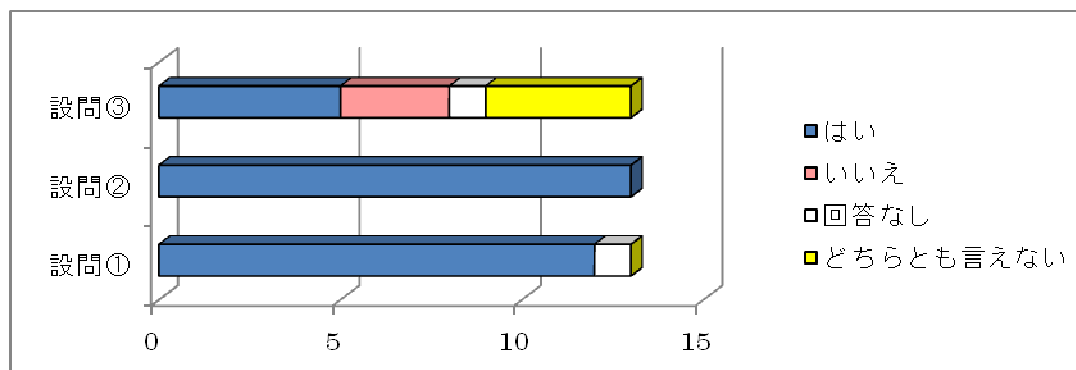
<事後アンケート等より>

(アンケート項目) …事例【B】1学期学年HR

- ①学校又は訪問生の様子（環境・実態・授業等）がわかりましたか？
- ②今回取り組んだ学習活動は、訪問生・通学生が共に参加し、楽しめるものでしたか？
- ③提示方法（TVやスピーカーにつなぐ等）は、生徒が見易い・聞き易いものになっていましたか？

※ 学校・家庭共にスピーカーに接続できず。

※ 設問③の「いいえ/どちらとも言えない」の回答内容は、「テレビへの接続で映像は見易かったが、音声聞き取りにくかった」との意見が多かった。



(訪問生保護者の回答より)

- 名古屋まで行けなかったけど、iPadの映像がすごくリアルでみんなと一緒にいけた気分を味わえた。
- まるでみんなと教室にいるようでした。このような機会を増やしていってもらえたら嬉しいです。
- 交流する友だちがあまりいないので、良い経験ができた。またやらせてほしい。

(学年教員の回答より)

- リアルタイムで表情や活動をみることができ、とても一体感があり、共に活動している感じがあってよかった。学年のつながりが一段と感じられる時間でした。家庭で過ごしている様子もよく伝わってきた。
- みんな画面にくぎ付けでした。画面に話しかけたり、手を伸ばしたりと今までの授業にはない生徒の様子がたくさんありました。
- 学年の歌を一緒に歌いましたが、タイムラグがあるのでちょっと不思議な感覚。

・その他エピソード

- 活動中、学校では大型TVに向かって歩み寄り、画面の訪問生の手を取ろうとしたり、話しかけたりする生徒が数名いた。他の生徒も画面に映った訪問生に夢中で、声を聞こうと耳を澄ます様子が多くみられた。通信状況により画像が止まってしまうことがあったが、その時の画面に映し出された訪問生の口角が上がっている表情をしっかりと見て受け取り、「Bちゃん笑ってる！」と友だちの様子を見て喜んでいた。
- 学年のある生徒は、「1学期一番思い出に残ったこと」として「Bちゃんとテレビ電話したこと」と発表した。